NAS

Nagasaki Institute of Applied Science

2009
JANUARY
学　報
No.92
編集・発行：入試広報課

2009年４月「環境・建築学部」開設！

**建築・まち・都市から、
自然・景観・地域社会まで、
環境と建築を総合的にデザインする!**

「環境・建築学部」の目指すもの

特集

- 年頭所感
- 第16代学長決定
- 「環境・建築学部」開設
- 全国高校生
  アイデアコンテスト

長崎総合科学大学

URL http://nias.jp/

Beginning of a year impressions

年頭所感

理事長　行徳威夫

新春のお慶びを申し上げます。皆々様におかれましては健やかに新年を迎えられた事と存じます。

昨年は米国のゆきすぎた市場経済至上主義により「サブプライムローン」の証券化された不良債権が不透明なまま世界中にばらまかれ、世界中の金融市場を巻き込み、百年に一度と言われる金融危機を招きました。現在世界中が同時不況で苦しんでいるのです。内閣府の月例経済報告によると、「景気は、弱まっている。さらに、世界経済が一段と減速するなかで、下押し圧力が急速に高まっている。」と日本でも深刻な影響が現れています。「トヨタショック」、「建設不況」は日本経済に甚大な悪影響を及ぼし、個人消費に関しても、実質所得の低迷による消費者の節約志向等から引き続き日本経済は低迷すると見られています。

今後日本経済が底入れに向かう鍵は、米国経済の回復と中国を中心とする新興国経済の拡大であり、某経済研究所は、日本経済の本格的な回復は２０１０年度以降にずれ込むと予測しています。

翻って近年における日本の出生率の低下は、私立学校の経営環境にはなはだ厳しい状況をもたらしています。２００８年度の入試では、４年制私立大学５６５校中２６６校の47・１％が定員割れになっています。前年の39・７％から７・４ポイント悪化しました（日本私立学校振興・共済事業団調査）。

定員割れした私立大学への補助金の削減幅を拡大する政策により、競争力のない私立大学は淘汰される運命にあります。

このような厳しい時代を乗り越えるには全学で危機意識を共有し、新しい時代の要請に応えた学部・学科の見直しや特色ある教育活動の展開、事務部門の改革、経費の削減など経営の効率化等の改革、改善活動を全員参加型で行っていかなければなりません。

２００７年度から「大学のビジョン」、「大学の中期運営方針」、各部署の「年度運営方針」を策定し、目標管理を導入し業務を推進してきました。現在、目標管理による業務活動は徐々に定着しつつありますが、まだ完全とはいえません。

今年度は具体的に明確な数値目標を立て、実りのある目標管理をしたいと考えております。

２００８年度の中間実績報告等から昨年度の反省点、重要課題を述べたいと思います。これはまた、２００９年度の重要施策となるものです。

1　認証評価について

２００２年の学校教育法改正に伴い、２００４年度以降我が国の大学は、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価を７年以内の周期で受けることが義務付けられました（認証評価制度）。大学評価を必要とする背景は、大学の経営に競争原理を導入したことに起因しています。

即ち、利益を追求することに腐心し人材育成を疎かにしていないか、社会のニーズにマッチしたカリキュラムが用意されているか、自由競争原理における学生の保護策は考えられているか、教育研究の国際通用力はあるかということが背景にあります。このため大学は、①社会に対して大学の質を保証すること、②大学の改善を継続的に実施することが求められています。「改革なくして成長なし」が基本の考え方です。大学の組織（教員組織、事務組織）、教育課程、施設および設備、財務等に関し競争に勝ち抜く「質と改善」が行われているかを大学自らが自律的に実施することが求められているのです。

この認証評価について、本学は２００８年度に日本高等教育評価機構の認証評価を受けています。受審に向けた自己点検評価の準備段階で種々の改善すべき点が明らかになっております。ご承知のとおり、その最も重要な点は学生定員の確保です。学生定員の充足率をいかに高めていくかが今後の法人運営に大きな影響を及ぼすことになります。

この認証評価の受審状況としては、２００８年６月末に本学の自己評価報告書を提出し、またこの報告書に基づく質問への対処も既に終了しております。さらに２００８年11月には日本高等教育評価機構の評価員による本学の実地調査が行われました。これらの段階を踏まえて、評価の最終結果は、２００９年３月下旬ごろに公表されることになっております。

この自己点検評価の過程の中で判明した多くの問題点を一つ一つ改善していくことが本学の発展に繋がることになります。そのためには、学内の教職員が一丸となって協働していくことが不可欠であります。

2　新しい年（新学長を迎え新しい体制で）

今年度末での現　林学長の任期満了に伴い、新しい学長選考規程に基づいて選考された第16代学長（貴島特任教授）が誕生します。任期は２００９年４月１日より２年間となります。今年は、法人理事会の下に学長を中心とした教学と事務局長を中心とした事務局が相互に情報を共有し、全学一丸となって本学が発展していくように法人運営を強力に、そして効率よく推進してまいります。

特に、大学の使命である人材育成については、教育力の向上を強力に進めるとともに、学生第一主義の活力ある学園づくりを念頭に、社会のニーズに合致した教育に取り組んでいきます。さらに、昨今の高等教育の多様化と研究のグローバル化の現状を鑑みて、海外の大学との国際交流をはじめ国内の他大学との連携も強力に進めたいと考えています。大学教員の国際交流は無論のこと、学生の国際交流も我が国のこれからの高等教育にとっては極めて重要なものと思います。

本学園が今後とも持続ある成長を遂げるために、新しい学長と工学研究科長及び3学部長の下で教育と研究の面で戦略的な運営を進めていただきます。

3　中期経営計画と2009年度運営方針

昨年10月に2009年度から2013年度までの5ヵ年中期経営計画のマスタープランを策定しました。学生確保、学生支援、キャリア支援、教育活動、研究推進、教職員、管理運営等の重点課題に対して、事業方針、事業目標、部署の施策、検討業務、等々法人経営に係わる約40項目の検討業務について工程表を作成し、また同時に担当委員会および部署、それを統括する担当役員も決めました。

2009年度の各部署の運営方針はこの中期経営計画に沿った内容で策定します。

4　事務職の意識改革

事務局については、今年は5Sとムダとり活動を徹底して進めます。5Sとは「整理、整頓、清掃、清潔、しつけ」の頭文字のSをとって5Sと云います。5Sはムダとり改善活動の基本で、トヨタをはじめ日本の優良企業の全員参加型経営の原点は5S活動にあるといっても過言ではありません。

5S活動は毎朝5～10分自分の身の周りを整理、整頓するところから始めます。そして、この活動を習慣、定着させなければなりません。5Sが進めば今まで見えなかった問題が「見える化」するのです。見える化した問題点を解決すればムダがなくなるようになるのです。ということで、事務職員一人ひとりについて「3つのムダ取り提案」を提出して、これをPDCAによる目標管理手法で解決して頂く予定です。また、成果の発表会なども計画しております。

さらに今年は事務部署間の仕事の流れ図（Work Flow Diagram）を作成して、重複業務やムダな業務などをなくし業務のスリム化を図る予定です。

2009年度は事務職員全員の研修会、課長研修等を実施し、事務部署のスリム化、シンプル化を積極的に進めてまいります。これからの大学経営は「教育と経営の分離」が必要で、教員は教育に専念し学生の学力の向上を図る、一方事務職員は戦略的な経営意思決定を支える「企画・管理のプロフェッショナル集団」へと変革することを求めています。

5　新しい時代のニーズに応えた魅力ある学部づくり（環境・建築学部）

当法人は、新しい社会のニーズに応えた学部・学科の見直しや特色ある教育活動の展開をしてまいりました。2007年4月には「臨床工学技士」の要員が不足しているという要請に応え「医療電子コース」を新設しました。今年の4月からは、人間と環境の調和をめざし、環境分野の教育研究を担ってきた人間環境学部環境文化学科と建築とまちづくりに貢献する数多くの建築技術者を輩出してきた工学部建築学科が融合し、新たに「環境・建築学部」としてスタートすることになりました。環境とまちづくりで、長崎の地域に貢献できる人材を育成し、また、地域と共生できる大学として活動してまいります。

昨年の8月に待望の「産官学連携センター」を設立し、名称にふさわしい陣容を配して活動が開始しました。「社会への貢献」「地域との共生」へ向けて邁進します。

6　附属高等学校

時津政憲校長を中心に教職員が一丸となって、①解かる授業の展開、②教育課程の見直し、③部活動の活性化、④大学との連携を強力に推し進め、魅力ある学校づくりができるよう法人運営をしてまいります。特に、小嶺忠敏総監督を中心としたサッカー部の存在感が一段と増しており、これを好機として活発な部活動を展開することで、生徒一人ひとりの自律心を高めるとともに、地域に根ざし愛される学校を目指します。

第16代学長に貴島勝郎氏

学長候補適任者選考委員会（委員長：中村康次 元県教育委員会委員）は2008年10月20日、林　一馬現学長の任期が2009年３月末で満了となることに伴い、次期学長候補適任者として、九州大学名誉教授で、学校法人長崎総合科学大学理事・長崎総合科学大学工学部船舶工学科特任教授の貴島勝郎を選定し、理事長へ報告すると共に公示した。

理事長は委員会からの報告を受け、同年11月15日の理事会において、貴島勝郎を第16代学長として承認し、2009年４月１日～2011年３月31日までの２年間の任命を決定した。

新しい学長選考規程に基づき、「学外委員を含む学長候補適任者選考委員会（10名）」が選定し、学長候補適任者を理事会で選考し、理事長が任命した初めての学長人事。

Profile

◇1943年６月15日生（65才）
◇工学博士（九州大学）
◇九州大学名誉教授

【学歴】
■1962年３月　鹿児島県立鶴丸高等学校卒業
■1967年３月　九州大学工学部造船学科卒業
■1969年３月　九州大学大学院工学研究科修士課程造船学専攻修了
■1972年３月　九州大学大学院工学研究科博士課程造船学専攻単位取得退学

【職歴】
■1972年４月　九州大学講師（工学部）
■1974年６月　同　助教授（工学部）
■1986年12月　同　教授（工学部）
■2007年３月　同　定年退職
■2007年４月　長崎総合科学大学工学部船舶工学科特任教授
■2008年６月　学校法人長崎総合科学大学理事～現在に至る

学長就任にあたっての抱負

この度、図らずも伝統ある長崎総合科学大学の学長という極めて重責のある役職を仰せつかり身の引き締まる思いです。現下の極めて厳しい状況で、如何にして本学を教育と研究に関して特徴のある、そして魅力のある大学に導いていくかが新学長に求められる責務であろうと考えます。

本学の中期計画及びその経営方針に沿って大学運営にあたる事は当然の事ながら、本学にとっては学生を如何にして安定的に定員を確保していくかが最重要課題です。この課題を達成していく為には本学の教職員全員が一致団結して対処する事が不可欠であると思います。さらに、教育・研究に関しては次の３つを基本方針として運営していきたいと考えています。第一は学生の学士力の向上であり、第二は本学の国際性の強化、そして第三は本学を特徴づける研究を基に産学連携を強化すること、この３つを基本方針として社会に貢献する大学、地域に貢献できる大学へ発展させていく所存です。本学がよりよい方向に進むように皆様のご支援ご協力をお願いする次第です。

Research&Lab

◇谷野准教授がターボ機械協会チャレンジ大賞を受賞

工学部機械工学科の谷野忠和准教授がターボ機械協会の「チャレンジ大賞」を受賞。

この賞は、ターボ機械に関する先端的な研究や技術開発にチャレンジし、将来ともターボ機械を背負っていくことが期待される若手研究者にそのチャレンジ精神を称え、贈られる。

谷野准教授は、九州大学在籍時に軸流圧縮機の内部の流れと性能の関係を明らかにし、学位取得とともに日本ガスタービン学会賞を受賞している。

本学に在籍後は、風力エネルギーの有効利用に傾注し、ターボ機械の研究への情熱と姿勢、ならびに教育と研究を通じ学生にターボ機械の面白さを教授していることが評価され、今回の受賞となった。

◇房安准教授らの研究課題が採択

独立行政法人科学技術振興機構（JST）の先端計測分析技術・機器開発事業の新規採択開発課題が発表され、本学情報学部知能情報学科の房安貴弘准教授がチームリーダーとなる研究開発課題も採択された。この研究には同学科の田中義人教授も参画している。

研究開発課題名は「GEMによる超高感度・大面積ガンマ線イメージセンサー」。本開発では、GEM（Gas Electron Multiplier）を用いた超高感度ガンマ線センサーと高密度実装システムLSIとを組み合わせることにより、大面積かつ高精度なイメージングを実現する。ポータブル非破壊検査や陽電子断層撮影（PET）などに使用できる。

同研究開発は東京大学やサイエナジー㈱、（独）国立文化財機構東京文化財研究所との共同開発となる。

◇「長崎県産炭地域活性化基金助成事業」2件採択

1つ目は「長時間の残光特性のある蓄光材、製品の開発」。

現在、㈱エム・ケー・ケーで開発してきた蓄光材料が、明るさ、残光時間が従来からのいわゆる蛍光塗料に比較して格段に改善されて非常灯に採用されるまでになった。

顧客からは更に明るく、長時間の製品の要求が多く、性能を向上する技術を開発する。

一方、夜間も明るく、長時間持続することから社会空間に適用して安全・安心に誘導避難、防犯にも役に立つし、省エネ効果もある。

本学からは、工学部建築学科の宮原和明教授、松下美紀非常勤講師、人間環境学部環境文化学科の吉村進特任教授、産学官連携コーディネーターで大学院客員教授の山中孝友氏が協力し、技術面の指導と社会空間への応用面での開発を行う。

2つ目は、ハウステンボス㈱等と共同で実施している「化石燃料を使用しない電気推進旅客船の開発」で昨年の開発に継続して本年度の開発が認可された。

この事業は本学工学部船舶工学科の中尾浩一准教授が設計・開発等に協力しており、昨年度も多くのメディアで紹介され、注目を集めた。

2008年度の事業内容は、太陽光発電による航行テスト。ソーラーパネルをカナルクルーズ船の屋根に全面的に装着して、航行テストを行う。ソーラーパネルは80枚で3・2KWの発電能力があり、晴れの日はソーラー発電のみの航行が期待されている。

昨年度公開された電気推進旅客船（於ハウステンボス）

◇文科省「都市エリア産学官連携促進事業（発展型）」長崎エリアの事業参画

文部科学省平成20年度「都市エリア産学官連携促進事業（発展型）」の地域選定において、長崎エリア「非侵襲センシング技術を活用した人に優しい予防・在宅医療システム」の事業テーマが採択された。

長崎エリアにおけるライフサイエンス分野の産学官共同プロジェクトで、本学の田中、下島、川添が研究にあたり、研究開発内容は予防・在宅医療システムの各計測機器（イタルセンサー）とネットワークを繋ぐインターフェイスの開発とネットワークの整備を担当する。

この事業では一般型（平成15～17年度採択）で試作した非侵襲型計測機器の高精度化と臨床試験、および、これらを電子媒体と組合せてシステム化した【長崎方式】の試作と実用性検証を行い、医療機器製品の実現に向けた研究開発を行う。

写真
上：田中義人教授
（知能情報学科）
中：下島　真准教授
（知能情報学科）
下：川添　薫准教授
（電気電子工学科）

受託・共同研究　※今年度実施されている事業

※①依頼主　②研究者　③研究名

1　①国内造船所
②工学部・船舶工学科　野瀬幹夫 教授
③初期構造設計のための鋼船規則実用化システムの開発（二重船殻構造船）

2　①テスト・リサーチ・ラボラトリーズ株式会社
②情報学部・知能情報学科　田中義人 教授
③LSI 設計に関する研究

3　①情報制御システム株式会社
②人間環境学部・環境文化学科　蒲原新一 講師
③携たうん ECO システムの応用展開に関する研究

4　①国立大学法人　九州工業大学
②共通教育センター　木永勝也 准教授
③近代日本工業教育史に関する研究

5　①流体テクノ有限会社
②工学部・船舶工学科　林田　滋 教授
③既存船への付加物による抵抗減少法の開発

6　①不動技研工業株式会社
②人間環境学部・環境文化学科　蒲原新一 講師
③企業におけるディスクレスの利用環境の調査

7　①長崎市
②工学部・建築学科　村田明久 教授
③景観資源（和・華・蘭建造物等）データベース構築に関する研究

8　①株式会社マサキ・エンヴェック
②工学部・船舶工学科　池上国広 教授
③水すましミニ連結システムに関する研究

9　①財団法人長崎県産業振興財団
②情報学部・知能情報学科　田中義人 教授
共同研究者：同学科　下島　真 准教授、
工学部・電気電子工学科
川添　薫 准教授
③文部科学省「都市エリア産学官連携促進事業（発展型）」
（非侵襲センシング技術を活用した人に優しい予防・在宅医療システム）
「予防・在宅医療システムの開発と検証」

10　①ハウステンボス株式会社
②工学部・船舶工学科　中尾浩一 准教授
③平成20年度長崎県産炭地域振興財団産炭地域活性化基金助成事業
「化石燃料を使用しない電気推進船の開発」

11　①粕谷製鋼株式会社
②共通教育センター　谷　昇 教授、
情報学部・知能情報学科　安田元一 教授
共同研究者：粕谷製鋼㈱商品開発室　深堀一夫 氏、
製造室　木下純一 氏
③KIKKO NET 接合治具と接合機械の研究開発

12　①㈲サン・レインボー
②人間環境学部・環境文化学科　大場和彦 教授、
大学院　山中孝友 客員教授
③長崎県の耕作放棄地を活用したバイオマス資源作物の収量・品質の評価

13　①住友金属工業株式会社　総合技術研究所
②工学部・機械工学科　高　允宝 教授
共同研究者：同学科　渡邊栄一 教授、
同学科　矢島　浩 教授、
住友金属工業㈱総合技術研究所　誉田　登 氏
③溶接継手部の疲労強度評価

14　①長崎県
②情報学部・知能情報学科　田中義人 教授
③牛床温度モニターによる牛発情検出器の試作とその有効性の検証に関する研究

15　①独立行政法人宇宙航空研究開発機構
②工学部・機械工学科　矢島　浩 教授
共同研究者：同学科　渡邊栄一 教授、
同学科　谷野忠和 准教授、
同学科　仲尾晋一郎 准教授
③先進複合材の液相中環境評価試験法に関する研究

16　①ソニー株式会社モノ造り技術センター技術開発室
②工学部・機械工学科　谷野忠和 准教授、
同学科　仲尾晋一郎 准教授
共同研究者：ソニー株式会社 牧野拓也 氏
③小型クロスフローファンによる薄い広幅流路の換気性能向上

17　①POSCO（韓国）
②工学部・機械工学科　矢島　浩 教授
③小型試験片による鋼材溶接継手部の破壊靱性値の評価

18　①独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構
②人間環境学部・環境文化学科　坂井正康 教授
共同研究者：工学部・機械工学科 村上信明 教授
③「地域活性化のためのバイオマス利用技術の開発（稲わら等の作物の未利用部分や資源作物、木質バイオマスを効率的にエタノール等に変換する技術の開発）」
バイオマスガス化発電・CI 化学変換コンバインド高効率システムの実証

19　①トヨタ自動車株式会社
②人間環境学部・環境文化学科　坂井正康 教授
共同研究者：工学部・機械工学科 村上信明 教授
③木質材のガス化評価

20　①積水化学工業株式会社 R&D センター
②人間環境学部・環境文化学科　坂井正康 教授
③浮遊外熱式ガス化装置によるセルロース系バイオマス（綿）の熱化学的ガス化研究

21　①株式会社中央環境
②人間環境学部・環境文化学科　坂井正康 教授
③バイオマスメタノールの用途技術評価

22　①宮城県林業技術総合センター
②人間環境学部・環境文化学科　坂井正康 教授
③スギ樹皮ペレット燃焼試験等

◇「産官学連携センター」の設置

2008年８月１日、本学はこれまで以上に社会への貢献を強力に推し進める目的で「産官学連携センター」を設置しました。

受託研究や共同研究の推進、知的財産権の取得と活用、新技術・新事業の創出等によって、研究成果を社会に還元し、地域産業の発展に寄与します。

この他、技術相談、講演会・交流会等による情報発信、ベンチャーオフィスの提供による起業支援など、地域に密着した活動を展開して、地域に信頼され、親しまれるセンターを目指します。

長崎の観光を変える「さるくマップ」完成

本学の建築学科の学生が長崎市さるく観光課の依頼を受け、「さるくマップ」の製作を担当した。

これまでは長崎港を正面に見た地図で、観光客が市街地を観光する際は逆さまに見ないと位置がわからなかった。また、文字が多く見えづらいなどの地図の充実が求められていた。

今回製作する上で、長崎らしさを感じ、お年寄りや子供、土地勘のない観光客へ配慮し、歩いてみたくなる地図の製作を目指した。

完成した地図は、稲佐山から眺める町並にすることで、JR長崎駅に降り立った観光客が方向を間違えることがないようにした。また、長崎らしく緑が多く、立体的にして目的地までの距離感をリアルに表現した。

作成された原画

NiAS Project

「NiASプロジェクト」は、作品製作等を計画する学生グループの課外活動を奨励することを目的に学生へ募集。学生の「ものづくり」や創作への探求を支えている。

2008年度は、次の12件の活動を採択。作品は製作の後、各種大会、コンテストへ出展し、11月1、2日の学園祭「造大祭」で展示された。

「高速人力水中翼船」

夢の船研究会（人力水中翼船部門）
顧問：野瀬幹夫（船舶工学科）
代表：大学院１年　立石昌也君
メンバー８名

「海洋エネルギー利用プロジェクト」

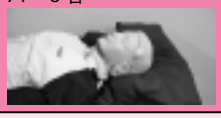
セブンオーシャン
顧問：川添　薫（電気電子工学科）
代表：電気４年　岩永賢一君
メンバー７名

「2人乗りソーラーボートの活用」

夢の船研究会（ソーラー船部門）
顧問：林田　滋（船舶工学科）
代表：船舶４年　佐野文紀君
メンバー６名

「安眠（アンミン）」

ME プロジェクト
顧問：川添・髙森（電気電子工学科）
代表：電気２年　荒木聡子さん
メンバー６名



「グライダー NiAS G－16」

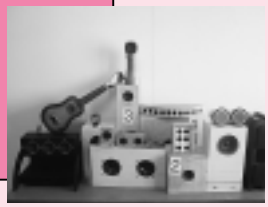
サーマルミッション
顧問：仲尾・谷野（機械工学科）
代表：大学院年　宮國健司君
メンバー10名

「長崎の教会群などの建築模型制作」

建築デザイン研究会
顧問：濱砂博信（建築学科）
代表：建築４年　松本賢人君
メンバー８名

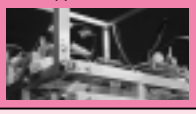
「スピーカー研究会」

おと吉
顧問：中村光彦
（電気電子工学科）
代表：電気２年
松尾拓己君
メンバー５名



「ロボット NiAS Challenge14号」

NiAS 夢工房
顧問：谷　昇（共通教育センター）
代表：知能３年　藤井孝行君
メンバー17名



Pick up

●「おと吉」は電気電子工学科2年生5名。携帯電話等のデジタルオーディオ機器用小型スピーカーシステムの設計・製作に取り組んだ。

●「NiAS夢工房」は12月25日、「NHK大学ロボコン2009～ABUアジア・太平洋ロボコン代表選考会」の書類選考を通過した。今春の「ビデオ審査」を通過すれば2年ぶり10回目の出場となる。

過去には準優勝1回、ベスト4進出2回をはじめ、数々の賞を受賞するなど輝かしい実績を残している。

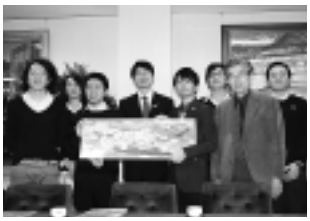
本学の財政状況

貸借対照表　2008年３月31日現在　（単位：百万円）

資産の部		負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	
科　目	金　額	科　目	金　額
固定資産	10,360	固定負債	1,156
有形固定資産	8,811	流動負債	450
その他の固定資産	1,549	基本金	13,156
流動資産	930	消費収支差額	△3,472
資産の部合計	11,290	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	11,290

［製作したメンバー］

■松本賢人（4年）■前澤佑輔（4年）■高村直登（4年）■喜多稔彦（4年）■一丸康貴（4年）■増永大樹（4年）■立川愛弥子（2年）■京田純子（2年）■荻原宏典（2年）



長崎市長と製作したメンバー

12月19日、作成された新「さるくマップ」の原画は田上富久長崎市長へ寄贈。「さるくマップ」は今後、長崎市内の各地で観光客などに配布される。

公開講演会開催

12/6 「武力紛争の現場から「平和」を考える」

12月6日、長崎市立図書館多目的ホールにおいて、「武力紛争の現場から『平和』を考える」をテーマに長崎平和文化研究所と共通教育センターが開催。東京外国語大学大学院教授の伊勢崎賢治氏がNGO・国際連合職員として紛争の現場で紛争処理などに当たった経験から、アフガニスタンでの戦争の実情や取組、紛争予防業界の創出を提言した。

12/18 「環境と建築を考える」

12月18日、長崎県立美術館において「環境と建築を考える」をテーマに環境・建築学部開設記念の講演会を開催。ランドスケープアーキテクトで長岡造形大学学長の上山良子先生が「場を作る－ランドスケープデザインの仕事」と題して、ランドスケープデザインをする上で大切にしている事などについて説明され、「長崎水辺の森公園」や「芝三丁目「芝さつまの道」」など、多くの実例を紹介して何を大事にし、意図して設計したかなどについて講演した。

11/8 「放送の未来」

11月8日、長崎市立図書館多目的ホールにおいて、「放送の未来」をテーマに工学部電気電子工学科が開催。NHK放送技術研究所の前所長谷岡健吉氏が『放送の未来を創る超高感度HARP（ハープ）撮像の発明と応用、今思うこと』と題して、HARP撮像管の発明の経緯・動作原理・特徴、実用化・性能向上の研究、放送での活用と他分野への応用、デバイス研究から思うことを講演した。

10/18 「若い人を魅了する造船産業の未来像！」

10月18日、長崎原爆資料館ホールにおいて「若者を魅了する造船産業の未来像」をテーマに工学部マリン工学科船舶工学科が開催。国土交通省海事局船舶産業課長の瀬部充一氏が「海を拓く造船産業」、長崎県産業労働部理事の上村昌博氏が「私達の未来」と題して講演した。

5/29 「地域の力、学生の力 －たてもの・まち・歴史－」

5月29日、長崎県立美術館において「地域のちから、学生のちから－たてもの・まち・歴史－」をテーマに工学部建築学科、人間環境学部が開催。作家でエッセイストの森まゆみ氏が「小さな雑誌で町づくり－谷根千の冒険」と題して、自分の生まれ育った町の様々なことを知りたい、伝えたい、残したいという思いから25年前に始められた地域活動の経緯や活動内容について講演した。

10/17 「情報デザインの目指すもの」

10月17日、長崎県美術館において「情報デザインの目指すもの」をテーマに情報学部が公開講演会を開催。世界の第一線で活躍されている九州大学大学院芸術工学研究院の源田悦夫教授をお招きし、「ディジタルコンテンツ教育」と題して、デジタルコンテンツ制作及び教育の最前線の話や、研究生の制作した作品を紹介した。

「高度３次元 CG の制作」

Team.SS

顧問：池末純一（知能情報学科）
代表：知能４年　福井翔平君
メンバー10名

「白木町自治会におけるボランティア環境づくり」

ぺんぎんの町

顧問：蒲原新一（環境文化学科）
代表：環境４年　松本喜満君
メンバー９名

「学内及び地域における環境教育活動」

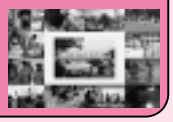
ISO の家

顧問：石橋康之（環境文化学科）
代表：環境３年　南里麻美さん
メンバー37名

「地域の心の映像化に挑む！」

Li-zemi film

顧問：李　桓（環境文化学科）
代表：大学院年　松永篤宜君
メンバー10名



2007年度　資金収支計算書　2007年４月１日から2008年３月31日まで

（単位：百万円）

収入の部 科目	金額	支出の部 科目	金額
学生生徒等納付金収入	1,474	人件費支出	1,648
手数料収入	19	教育研究経費支出	536
寄付金収入	14	管理経費支出	160
補助金収入	485	借入金等利息支出	12
資産運用収入	22	借入金等返済支出	56
資産売却収入	2	施設関係支出	4
事業収入	105	設備関係支出	67
雑収入	182	資産運用支出	0
前受金収入	294	その他の支出	55
その他の収入	219		
資金収入調整勘定	△529	資金支出調整勘定	△50
前年度繰越支払資金	893	次年度繰越支払資金	692
収入の部合計	3,180	支出の部合計	3,180

2007年度　消費収支計算書　2007年４月１日から2008年３月31日まで

（単位：百万円）

支出の部 科目	金額	収入の部 科目	金額
人件費	1,630	学生生徒等納付金	1,474
教育研究経費	759	手数料	19
管理経費	177	寄付金	21
借入金等利息	12	補助金	485
資産処分差額	28	資産運用収入	22
		事業収入	105
		雑収入	194
		帰属収入合計	2,320
		基本金組入額合計	△66
消費支出の部合計	2,606	消費収入の部合計	2,254
当年度消費支出超過額	△352		
前年度繰越消費支出超過額	△3,120		
次年度繰越消費支出超過額	△3,472		

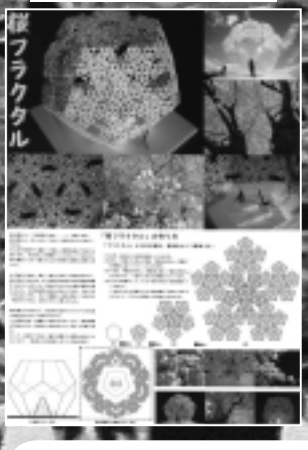
Open Campus Contest

「創造」「自由」「体験」「感動」
ものづくりのロマンが隠されている

全国高校生アイデアコンテスト
審査結果発表

第11回設計アイデアコンテスト

最優秀賞　「桜フラクタル」
山梨県立甲府工業高校
１年　山口　千明 さん



優秀賞
「桜並木にちょうちんの明かりをどうぞ。」
滋賀県立安曇川高校
２年　六波　羅涼 さん

優秀賞
「CHERRY TOWER」
兵庫県立龍野実業高校
３年　土井ありさ さん

テーマは「花見台」。本学シーサイドキャンパスに「花見」から連想される様々な場面を設定して、「花見台」を自由にデザイン。
【最優秀賞作品の講評】
桜のモチーフを小さいところから大きいところまで一貫して良く形にまとめあげている。出来上がったものがオブジェとして楽しめ、スケール感の表現や模型のプレゼンテーションが良く、綺麗にまとめられている。

第４回デジタルメディアコンテスト

最優秀賞
長崎純心女子高校
３年　庄林　　陽 さん

優秀賞
福島県立郡山商業高校
３年　吉田由布子 さん

優秀賞
福島県立いわき総合高校
２年　髙田　　領 さん

◎デジタルアート部門　テーマは「未来」。未来の夢、暮らし、都市、家族、自然、遊びなどに関して、自由な発送でデザイン。
【最優秀賞作品の講評】　地球温暖化により南の島が水没にさらされているという、今日的な課題に真正面から前向きに向き合っていることが分かります。表現方法も、水面に浮かぶマングローブの木を美しく抽象化して上手く表現してあります。このような願いが波紋として全世界に拡がることを期待。

最優秀賞
三重県立四日市工業高校
【伊藤瑞希さん他４名】

優秀賞
宮崎県立佐土原高校
【山本愛美さん他１名】

◎ホームページ部門
テーマは「紹介ページ」。
自分の学校や住んでいる地域を魅力的に紹介。
【最優秀賞作品の講評】
このまま公式サイトとして実用に耐えられる完成度の高いページ。軽快な配色で全体を構成。さわやかでスマートな学科のイメージをうまく表現。

第２回エコ活動コンテスト

テーマは清掃活動やリサイクル運動など「社会活動部門、水質調査や生物調査など「研究活動部門」の活動成果。
最優秀賞　「ECO-P（えこぴい）」兵庫県立三木北高等学校環境研究部
【講評】「ECO-P」は高校の同好会として、エコバッグやマイうちわ、割り箸回収などの身近なことから、森づくりや、市や商店街の代表者とシンポジウムを開くなど、影響力の高い推進活動を行っている。内容は多岐にわたり、活動として完成度が高い。
優秀賞　「宮高落消部隊」京都府立宮津高等学校建築科

訪問者

2008年度４月より、進路選択、職業体験などを目的に本学に訪れ、キャンパス見学や、体験学習を行った学校などを紹介。

No.1

5／22
付知中学校
（岐阜県）

生徒５名と引率の先生１名。「ロボット製作・制御体験」と「Web コンテンツ制作体験」の２つのグループに分かれて体験学習。

No.2

6／26
「日本語サミット」
の留学生

将来の外交官を目指す15カ国16名が参加。サミットのプログラムの一環として、シーカヤック操船やプレジャーボート３艇による牧島一周など海洋体験学習を実施。

No.3

6／26
五島海陽
高　校

１年生21名と引率教員１名。「産業社会と人間」という進路ガイダンスの授業の一環として、将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる目的。

No.4

6／26～7／24
嶺南理工
大学（韓国）

学生20名の日本語短期研修。約１ヶ月の期間で、日本語の授業のほか、体験学習を通じて、日本の文化に触れ、交流を深める目的。

No.5

7／3
長崎南山
高　校

理系クラス３年生の生徒38名と引率教員２名。学内の実習設備等を見学。

No.6

7／9
島原翔南
高　校

１年生20名と引率教員１名。高校の「産業社会と人間」という進路ガイダンス授業の一環として、将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる目的。

No.7

7／10
長崎鶴洋
高　校

１年生37名と引率教員２名。高校の「産業社会と人間」という進路ガイダンス授業の一環として、将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる目的。

No.8

7／22
長崎東
高　校

理系の２年生30名と引率教員２名。「NiAS セミナー」。高校の総合的な学習の時間を利用し、大学等へ出向いたフィールドワークを実施する目的。

No.9

7／31
諫　早
高　校

１年生30名と引率教員１名。理数科の教育活動の一環。

No.10

8／6～7
島　原
高　校

理数科の１年生37名と引率教諭２名。高大連携の一環。生徒の科学に対する興味・関心を高め、科学的なものの見方・考え方を体得させる目的。

No.11

9／5
上五島
高　校

理系クラス２年生39名と引率教員１名。進路に対する知識と自己の将来への関心を深めさせ、生徒一人一人の適切な進路選択の一助とさせる目的。

No.12

9／10
岩　屋
中学校

生徒12名。実験・実習設備等の見学と体験学習を行い、自身の適性を見つめ直し、将来の進路・職業に対する関心を高め、学校生活への意欲高揚を図る目的。

No.13

9／18
真津山地区民生
児童協議会委員

委員22名。研修のため、実験・実習設備等の見学。

No.14

10／16
阿智高校
（長野県）

２年生35名と引率の先生２名。修学旅行の体験学習として「Web コンテンツ制作」を体験。

No.15

10／29
長崎明誠
高　校

１年生43名と引率教員３名。大学の研究・教育内容に触れ、進路選択の視野を広げ、目的をもって学習に取組む態度を養う目的。

No.16

11／12
西彼杵
高　校

１年生25名と引率教員２名。教育・研究内容等に触れ、職業理解を深め進路意識を高める目的。

No.17

11／14
長崎南
高　校

１年生10名と引率教諭１名が職場訪問。職業理解を深め進路意識を高める目的。

No.18

12／13
長崎北陽台
高　校

理数科２年生78名と引率教員４名。特色ある教育活動の一環として「本物」との出会いをスローガンに体験。

Topics

1 高等海難審判庁長官より感謝状

本学の矢島　浩教授と池上国広教授が長年に亘り長崎地方海難審判庁参審員として学識者の立場で海難行政に携われてきた功績を称えられこのほど感謝状が授与された。

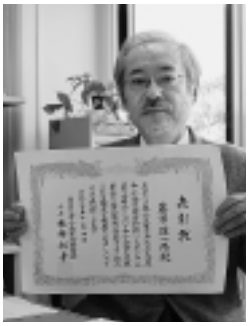
海難審判庁は、海難の再発防止に寄与するため、海難審判法に基づき海難の原因を究明する国の行政機関（国土交通省の外局）。

今年10月に運輸安全委員会が発足し、現行の航空・鉄道事故調査委員会と海難審判庁が統合（海難審判庁の現行の懲戒のための対審方式による審判は新設される海難審判所が引き継ぐ）されるため、両氏の参審員の任期は9月まで。

工学部・
機械工学科
矢島　浩教授

工学部・
船舶工学科
池上国広教授

中小企業診断協会より表彰



11月4日、本学情報学部経営情報学科の藤澤雄一郎教授が、㈳中小企業経営診断協会主催の「中小企業経営診断シンポジウム」において、自身の論文をもとに経営革新支援の事例発表を行い、協会より中小企業の支援事業の強化推進に貢献する論文発表として、表彰を受けた。

同教授は、中小企業診断士や社会保険労務士等の資格を有し、㈱経営開発機構の代表取締役として、同協会長崎県支部の副支部長や㈶建設業振興基金アドバイザー等も兼務など長年に渡り、コンサルティング業界で活躍。

今回の論文は『和する組織づくり』。①中小企業に和力経営を取り戻す②自立人間の育成③経営における経済合理性追求の限界を問題とし、人材の意識改革や全社的報連相教育導入などの具体的な工夫を加えた実際の企業での経営革新の取り組み事例をとりあげ、大学との連携など今後の課題や展望を論じた。

博士学位論文公聴会

本学大学院工学研究科において、5月28日、山口欣弥氏、8月6日、馬場脩氏の学位論文公聴会が行われた。

■山口欣弥氏の学位論文の題目

「降伏点47kgf／mm2級鋼板の大型コンテナ船強力甲板部構造への適用に関する研究」

第3回工学研究科教授会において、審査報告と学位授与の可否についての投票を行ない、全員一致で学位授与を承認。

10月17日、本学キャンパスで山口氏の学位記授与式が挙行され、林学長より学位記が授与された。

山口欣弥氏

馬場　脩氏

■馬場脩氏の学位論文の題目

「SPB方式LNG船アルミニウム合金タンクの溶接継手品質向上に関する研究」

第6回工学研究科教授会において、審査報告と学位授与の可否についての投票を行ない、全員一致で学位授与を承認。

布マルチ栽培で無農薬米の育成実験

人間環境学部環境文化学科の繁宮悠介講師と環境保全などについて研究する4年生7人が、綿くずを原料とした布に種もみを挟み込んだ「布マルチシート」を使った米の無農薬栽培に取り組んだ。

5月21日、学生たちは、約5百平方メートルの田んぼでシートを敷き詰める作業を実施し、新聞やテレビのニュースでも取り上げられた。

繁宮講師は、4年前から里山の保全と大学と地域の活性化のため、日本の棚田百選に認定されている大中尾棚田（長崎市神浦下大中尾町）の同保全組合が実施している「棚田オーナー制度」のオーナーとして参加しており、昨年よりこの棚田で、布マルチ栽培という手法で無農薬米の育成実験にチャレンジしている。

昨年は収穫した新米を携え、学生とともに長崎市長を表敬訪問し、取り組みの現状報告も行った。

**他にも
こんな活動を
しているよ！**

5/29 長崎市総合防災訓練

9/13 レクレーション・スポーツ教室

10/18,19 青少年のための科学の祭典

4/27,28 長崎帆船まつり

7/25 「温泉バイオディーゼル燃料研究会」

7/27 「2008ながさきみなとまつり」

5/10,11 「KTNの日」

7/19～21 「ももちシーサイドフェスタ2008」

10/19 住吉神社祭礼

5/5,6 PROJECTクリーンNiAS「自転車発電」

「九州国際テクノフェアICT2008」に本学が出展

10月8日～10日の3日間、西日本総合展示場（北九州市）において「九州・国際テクノフェアICTコンバージェンス2008」が開催され、本学も出展した。

期間中、2万7千人を超える来場者で賑わう中、文部科学省都市エリア型産学官促進事業（発展型）に選定された「予防・在宅医療システムの開発と検証」で行われている技術と、8月に開設された産官学連携センターの活動を中心に紹介した。

情報学部知能情報学科の田中義人教授、下島真准教授が来場者の質問等に対応し、工学部電気電子工学科医療電子コースの川添薫准教授の研究室を加えた3研究室の学生もサポート役で大活躍だった。

各地区で父母懇談会を開催

6月15日、本学グリーンヒルキャンパスにおいて、長崎地区の3、4年生（126組192名）。9月21日には、同地区の1、2年生（102組145名）を対象にした父母懇談会を開催。ご父母、学生が参加した。

懇談会では、全体会で就職状況や学生生活支援の説明などが実施され、その後、各学部各学科に分かれ、個人面談を実施。

面談終了後、本館食堂で本学関係者との懇談会を開催し、父母間での交流や先生方との情報交換が活発で盛況に終えた。

本学では毎年、ご父母との連携を図るため、長崎をはじめ、全国各地で父母懇談会を開催している。

当日は、就職室を開放し、保護者からの就職相談への対応も行った。

【2008年の実績】

- ■6月15日　長崎
- ■9月6日　佐世保、山口
- ■9月7日　佐賀、福岡
- ■9月13日　神戸、宮崎
- ■9月14日　松山、鹿児島
- ■9月21日　長崎
- ■10月11日　沖縄

OB・OGと4年生内定者による業界・職種研究座談会

11月7日、本学で就職活動を目前に迫った3年生を中心とした在学生に対して、今後の進路選択の参考にしてもらうことを目的に、「OB・OGと4年生内定者による業界・職種研究座談会」を開催。

これは、正規カリキュラムでの就職支援プログラム「将来計画フォーラム」の受講者を対象に毎年実施しているもの。今年は様々な業界・職種で活躍する卒業生4名とすでに就職先が決定している4年生内定者7名が、現在の仕事内容についての話や就職活動に対するアドバイスを行った。今後、3年生は本格的な就職活動の時期に突入していく。

本学では就職・キャリア形成支援に力を注ぎ、毎年、高い安定した就職内定率を誇っている。

空手道選手権で準優勝

「第25回オープントーナメント長崎県空手道選手権大会」において、工学部機械工学科4年の岡田雄一君が準優勝した。

岡田君は高校時代に空手を始め、道場での練習に励んできた。一般になってから初めての受賞となった。

7月17日、学長室でスポーツ振興賞の報奨金授与式が行われ、林一馬学長より、岡田君へ報奨金が授与された。

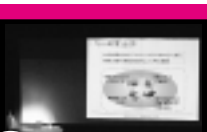
水泳部の吉田司君が長崎市水上選手権でMVPを受賞

9月7日、長崎市民総合プールで開催された「第43回長崎市水上選手権」で、本学水泳部の吉田司君（情報学部経営情報学科4年）が見事、大会最優秀選手（MVP）に選ばれた。

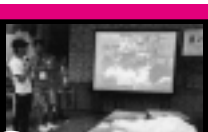
吉田君は男子50mバタフライで優勝。200m個人メドレーでも3位に入賞した。吉田君は過去にも「九州学生選手権水泳競技大会」や「九州地区大学体育大会」等でも優勝していた。

9月24日、学長室でスポーツ振興賞の報奨金授与式が行われ、林一馬学長より、吉田君へ報奨金が授与された。

10/18「長崎県もったいない運動推進大会」



10/11「長崎県美しいふるさと推進大会」



8/31 新上五島奈良尾地区まちづくりワークショップ

8/23「大村市こども科学館まつり」

10/26「出島まつり2008」

10/22 人間環境学部で稲刈り

8/29「ゴミゼロながさき取組事例発表会」

10/11「赤とんぼの街づくり運動」

2009年度学生募集要項

これから受験できる入試制度は次の通りです。
「願書」および「過去の入試問題集」は下段の「問合せ・資料請求先」へ連絡いただくか、ホームページから申込ください。

■学部〔工学部　情報学部　環境・建築学部〕

学　部	学　科〔コース〕	定員
工　学　部	船舶工学科〔造船技術コース、海洋フロンティアコース〕	35
	機械工学科	45
	電気電子工学科〔電気電子工学科、医療電子コース〕	45
情　報　学　部	知能情報学科	45
	経営情報学科	45
環境･建築学部	人間環境学科〔環境技術コース、地域共生コース〕	45
	建築学科〔建築学科、住居学コース（女子のみ）〕	45

	ＡＯ入試	
	ＡＯ（双方向）入試	ＡＯ（特待生）入試 後期
出願期間	9月1日～3月13日	12月1日～1月30日
試　験　日	随時	2月6日
合格発表日	2月14日 3月10日 3月19日	2月14日
科　目　等	面接（個別） 志願理由書 （出願時提出：600～800字）	
会　　場	原則として本学	本学
検　定　料	30,000円	

	一　般　入　試		センター試験利用入試	
	前　　期	後　　期	前　　期	後　　期
出願期間	1月7日～1月30日	2月16日～3月3日	1月7日～2月6日	2月23日～3月13日
試　験　日	2月5日 2月6日	3月8日	－	－
合格発表日	2月14日	3月13日	2月14日	3月19日
科　目　等	2科目 ■1時間目 1．国語（国語総合（古文、漢文を除く）） 2．理科（物理Ⅰ＋Ⅱ、化学Ⅰ＋Ⅱ、生物Ⅰ＋Ⅱ） ■2時間目 3．数学①（数Ⅰ＋数Ⅱ＋数Ａ＋数Ｂ） 4．数学②（数Ⅰ＋数Ａ） ■3時間目 5．外国語（英Ⅰ＋英Ⅱ＋リーディング）		3科目　2科目 1．外国語（英、独、仏、中、韓） 英語のみリスニングテストを含む 2．地理歴史（世Ａ、世Ｂ、日Ａ、日Ｂ、地理Ａ、地理Ｂ） 3．数学①（数Ⅰ、数Ⅰ・数Ａ） 4．数学②（数Ⅱ、数Ⅱ・数Ｂ、工、情報） 5．国　語（国語） 6．理科①（理科総合Ｂ、生物Ⅰ） 7．理科②（理科総合Ａ、化学Ⅰ） 8．理科③（物理Ⅰ、地学Ⅰ） 9．公　民（現社、倫理、政経）	
	※学部・学科で入試科目や出題範囲が異なります。 詳細は、お問合せいただくか、学生募集要項または大学のホームページでご確認ください。			
会　　場	長崎、佐世保、五島、対馬、那覇、鹿児島、宮崎、大分、熊本、佐賀、福岡、松山、広島、岡山、大阪、名古屋、東京	長崎、鹿児島、福岡、松山、広島、大阪、名古屋、東京		
検　定　料	28,000円		13,000円	

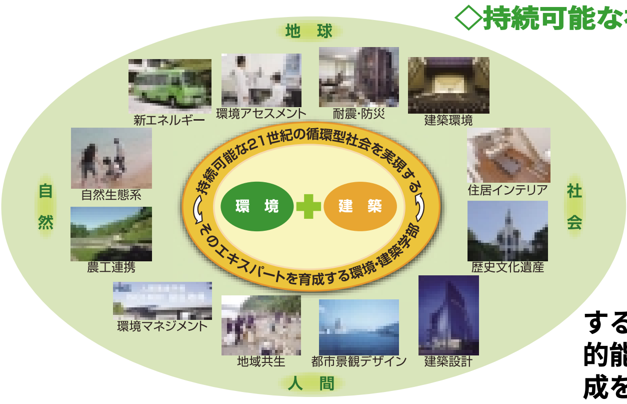
◇問合せ・資料請求先
長崎総合科学大学入試広報課
〒851-0193　長崎市網場町536　0120-801-253

Information

環境に優しい、暮らしやすい未来のために
「環境・建築学部」2009年４月開設

人間と環境の調和をめざし、環境分野の教育研究を担ってきた人間環境学部環境文化学科。
長年、建築とまちづくりに貢献する数多くの建築技術者を輩出してきた工学部建築学科。
これまでの両学科の蓄積を活かしながら、環境に優しい、暮らしやすい未来に向けて、２つの学科を合体して、2009年４月、新たな「環境・建築学部」として生まれ変わります。

環境・建築学部がめざすもの
◇持続可能な社会づくりに挑戦



21世紀は環境の世紀です。持続可能な循環型社会づくりが求められています。これに寄与していくために、高い環境意識と環境および建築に関する技術、ならびに応用的能力を有する人材の育成をめざします。

◇実践力、デザイン力、創造力の重視

建築・まち・都市から、自然・景観・地域社会までをあつかいます。未来の環境と建築を総合的にデザインすることが大切です。
そのためにレベルの高い技術を身につけ、実践力、デザイン力、創造力を育てます。

◇総合力、相互啓発による新たな研究基軸の確立

環境学、建築学のそれぞれの蓄積を活かしながら、相互啓発による総合力を結集します。環境・建築学部では、これを踏まえて環境の世紀にふさわしい新たな研究基軸の開拓・推進をめざします。

学部・学科の詳細な内容は次の URL をご参照下さい。
【URL】http://nias.jp/new2009／index.html

アクセスしてNiASを知る

本学を知る手段の一つにホームページがあります。学部・学科紹介のほか、教授の研究室、学生の活動、資格取得、就職状況など、公開しています。
高校生には大学選びの情報、企業の方々には共同研究・求人の情報としてご活用ください。
さらに詳しく知りたい、分からない事がある方は、「問合せ」や「NiAS意見箱」などをご利用ください。

編集後記

昨年の学報で企業の採用意欲が最高潮に達している記事を執筆した！あれからわずか一年。学生の就職はまた氷河期に向かっている。人々が作り出した21世紀社会の急激な変化に翻弄されている皮肉な社会情勢。こんな時こそ、大学や企業は連携し、若い人材を全力で育てなければならない！そこには短期的利益を優先せず、長期的な視点と使命感が重要だ！うわべだけでない「社会的責任」と「人財」に対する認識が問われている！（T）

「百年に一度の大恐慌」。大学を取り巻く環境もまた厳しい。学生が活き活きと学生生活を送り、社会へ送り出せるように、私たち大学関係者は地域社会と連携して学生をサポートしていかなければと再認識する。（I）

このＱＲコードで
本学携帯電話ホームページにアクセスできます